

竹  
笥  
省

山林規則

1482



114  
A3518



林規則議案並概算經費書

附錄

御布告案

假山林規則

山林局本支職制

假官伐供給規則

假監守規則

假培養規則

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

月務自

山林ヲ保護スルハ國家經濟ノ要旨タル  
議

一山林樹木ノ國家經濟上ニ關係スル細少ナラ  
ス而シテ其利害ノ係ル所ノモ、亦廣ク且ツ  
大ナリト云ヘシ而シテ之ヲ區別スルハ大  
約ニ條トス曰ク土地ノ利害ニ關スルモ、曰  
ク國用ノ利害ニ關スルモ、ナリ土地ノ利害  
ニ關スルモ、ハ則テ水源ヲ涵養シ風潮ヲ防  
禦シ土砂ヲ打止シ陰陽ノ調和ヲ致スモ、是  
ナリ國用ノ利害ニ關スルモ、ハ則テ官室ヲ

建築之船艦ヲ製造シ道路ヲ修治シ橋梁ヲ架  
設スルモノ等是ナリ

一請フ試ミニ土地ノ利害ニ関スルモノヲ論セ  
ニ夫レ樹木生育シ山林繁茂スレハ則チ土地  
自ラ潤ヒ泉源自ラ発シ淵澤常ニ満テ河水流  
通ス是ニ於テ田畝灌溉ノ利アリ舟筏往来ノ  
便アリ陰陽調和ヲ得テ日用飲料等亦以テ不  
足ノ憂無ルハシ

一若シ夫レ樹木ヲ伐リ山林ヲ禱ニスレハ土地  
漸ク燥キ泉源漸ク涸レ而シテ河水流通ノ弊

ヲ失フ是ニ於テ田畝灌溉スルヲ得ス舟筏進  
未スルヲ得ス而シテ日用飲料等亦以テ不足  
ノ憂アルヲ免セス豈ニ唯然カルノミナラニ  
ヤ山林禱ナレハ雨水含蓄ノ所ナク土地燥ケ  
ハ土石固着ノカナク一旦大雨アルニ遇ハハ  
山崖崩頽シ砂石流出シ水潦立トコロニ集リ  
川谷暴ニ漲リ堤防ノ壞決田畝ノ漂没職トメ  
此ニ之レ由ル是ヨリ以往ハ砂泥益壅カリ河  
底益高ク旱熯水溢手ヲ逐テ存クニ臻リ其禍遂  
ニ挽回スベカラサルニ至ル是昔時熊澤了介

ノ痛論スル所ニシテ今日之ヲ我國諸州ノ実  
況ニ徴スルニ隨在皆然ラサルモノナリ頃又  
竊ニ佛國山林學士ノ説ヲ親聞スルニ一々符  
節ヲ合スルカ如シ然レハ則チ山林ヲ保護シ  
樹木ヲ培養スルハ獨リ經濟上ノ利害ニ關係  
スルノミナラス抑亦國土ヲ保安スル所以ニ  
シテ之ヲ苟且圖奪ニ付スヘカラサルヤ明カ  
ナリ  
一其他山林ノ風雪ヲ防キ波濤ヲ禦キ土砂ヲ打  
止スルモノ或ハ海濱ニ在テハ漁場ヲ護リ船

船ヲ保ニシ或ハ田野ニ在テハ民家耕地ヲシ  
テ諸般ノ患害ヲ蒙ラサシメ時氣ヲ調和シ  
テ人ノ健康ヲ保攝ス是皆山林樹木ノ功用ニ  
シテ國土ノ久クヘカラサル所以ノモノナリ  
若シ夫レ山林ノ風景ヲ粧飾スル如キハ國家  
緊要ノ事ニ非スト虽凡然レ凡樹木鬱蒼山水  
明媚ノ地ニ至ラハ誰カ其心目ヲ怡ハシメサ  
ラニ而シテ充兀不毛ノ境ニ値ハ、誰カ荒涼  
索莫ノ觀ヲナサ、ラニ故一樹木ノ風景ヲ粧  
ホフモノハ亦人ノ健康ヲ養ヒ國ノ文華ヲ増

ス所以ニ云テ是又保護セサルヘカラス凡ソ  
此数件ノチノハ皆土地ノ利害ニ関スルモノ  
ナリ

一請ヲ試ニニ國用ノ利害ニ関スルモノヲ論セ  
ニ我國ノ地タルヤ島嶼碁峙シ四周海水ヲ環  
ラシ搬運往來船舶ノ力ニ因ラサルモノナシ  
今夫一軍艦ノ備ナキ何ヲ以テ攻守ノ用ヲ辨  
セニ郵船ノ設ナキ何ヲ以テ彼此ノ往來ヲ通  
セニ廻漕ノ便ナキ何ヲ以テ物産ノ流通ヲ達  
セニ試ニ見ヨ日用衣食官室ヨリ以テ百需ノ

物品ニ至ルマテ大抵海運ノ致ス所ニシテ其  
陸運ニ係ルモノ僅ニ百分ノ一二ニ過キス然  
ルニ舊製船舶ノ如キハ製造堅カラズ運轉  
便ナラス動モスレハ年々覆没スルモノ無慮  
数百艘帝ニ物品ノ暴殄スルノミナテス至重  
ノ人命ヲ失ヒ國産ノ衰耗ヲ招キ其關係スル  
所豈淺勘ナランヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ方今  
ノ要務ハ大ニ汽艦ヲ製シ威ニニ帆船ヲ造リ  
以テ海運ノ便ヲ開クニアリ苟モ造船ノ業ヲ  
盛大ニセト欲セハ必ス莫大ノ良材ヲ需用

セサルヲ得ス

一而シテ鑛路ヲ敷キ燈臺ヲ設ケ官署ヲ興シ兵  
營ヲ築キ橋梁ヲ架シ新道ヲ開キ堤防ヲ修ム  
ルカ如キ國家緊要ノ事業タル論ヲ竝ス故ニ  
維新以來盛ニニ西洋ノ模範ヲ取り務メテ宏  
莊堅牢ヲ期ス而シテ大木良材ヲ需用スル亦  
益多シ今夫レ十里ノ鑛路ヲ敷クヤ必ス數萬  
ノ木材ヲ要ス一所ノ兵營ヲ築クヤ亦必ス數  
萬ノ木材ヲ要ス政府一歳ノ需用スル所ヲ計  
ルニ無慮數百萬本ニ下ラス況ニヤ今年新ニ

皇宮造營ノ命ヲ下シ大ニ國家ノ光輝ヲ増シ  
トス其大木良材ヲ需用スルト豈尋常土木ノ  
比ナラニヤ凡ソ此數件ノモノ方今國家ノ要  
務ニシテ其必需スル所一トシテ樹木ヲ須タ  
サルモノナシ夫レ山林樹木ノ土地利害ニ関  
スル彼カ如ク大ナリ其國用利害ニ関スル此  
ノ如ク廣シ然ラハ則テ山林樹木ノ保護培養  
セサルヘカラサル智者ニシテ知ルトテ俟タ  
サルナリ

一彼ノ亭佛諸國ノ如キハ上ニ官林ヨリ下モ民

林ニ至ルニテ特ニ之カ官署ヲ置キ之カ法律  
ヲ設ケテ講ルニ學校アリ之ヲ試ムルニ道場  
アリ其他培養ノ法需用ノ節凡リ山林ヲ保護  
スル所以ノモノ至ラサルナシ獨リ西國然ル  
ノミニアラス泰西<sup>諸國</sup>大率皆然ラサルナシ而シ  
テ我國峯巒四合ニ深林茂樹平地ノ半ニ在テ  
今日猶木材ノ匱乏ヲ歎シ大工作アル動モス  
レハ良材ヲ百里ノ遠キニ求メ而シテ猶需用  
供給ノ相繼カサルヲ恐ル蓋シ廢藩ノ前濫伐  
ヲ極メ竟ニ此弊ヲ致スニ由ルト雖モ今ニシ

テ山林保護ノ道ヲ講究設立セスニハ土地ノ  
保安國用ノ供給何ニ由テ得ニ此豈最モ深察  
セサルヘケンヤ

一議者或者言ク泰西諸國ノ專テカラヲ山林保  
護ニ用ユル所以ノモノハ其土地磽瘠ニシテ  
植物乏キニ因ルノミ我邦ノ如キハ土地膏腴  
植物自然ノ生育ニ由ルヘシ必スシモ培養保  
存セスト雖モ自ラ發生暢茂シ勝テ用ユヘカ  
ラサルモニアラニ何リ必ス泰西諸國ノ嚆  
儆ヲ用メント嗚呼何ノ其思ハサルモ甚シキ



夫レ物ノ限リアル需用ノ窮リナキ富メルモ  
ノ常ニ富ス苟クモ之カ保護ヲナサハハ  
竟ニ亦盡期ナカラニヤ

一合衆國前時大ニ喬木良材ニ富メルヲ以テ威  
ニニ造船ノ業ヲ興シ之ヲ自國ニ用ヒ之ヲ外  
國ニ賣與シ遂ニ國民ニ令ニテ外船ヲ買ヒ外  
船ヲ雇フヲ禁シ以テ富强ノ実ヲ致セリト  
云フ然レモ今ハ則ケ良材漸ク少ク復々前時  
ノ比ニアラス願フニ彼ノ合衆國豈獨リ保護  
ノ方法ナカラニヤ而シテ今日稍其良材ノ匱

乏ヲ致ス猶且ツ如此而ル況ニヤ保護ノ方法  
ナキニ於テラヤ

一彼ノ佛國ノ如キ山林ノ富ニ遠ク我國ニ及ハ  
スト雖モ其一歳山林ヨリ生スル所ノ利益ヲ  
計ルニ能ク数百万金ニ及フト云フ然ル所以  
ノモ、ハ何ツ他ナシ平常保護ノ方法其宜キ  
ヲ得ルニアルノ三  
一今我國ノ地タル暖帶ノ中央ニ位シ南ハ熱帶  
ノ海潮ヲ受ケ北ハ寒帶ノ風氣ヲ控キ三帶ノ  
地ニ産スル植物大抵皆備ハラサルナシ之一

大天造ノ植物園ト云モ決シテ虚辭ニアラサルナリ

一故ニ能ク之レヲ保護ノ法ヲ設ケ之レカ措置ノ宜キヲ得レハ則テ國家許多ノ利益タルヤ必セリ然ラハ則テ山林ヲ保護スルハ實ニ國家ノ要事ニシテ方今當サニ着手スヘキノ急務タルヲ知ルヘシ

一蓋シ樹木ノ生々ハ固ヨリ造化ニ出ルト雖トモ其生々ヲ助ケ以テ成長ニ至ラシムルモノハ未タ必スシモ又力培養ノ功ニ依ラスニハ

アラス然シテ其成長ニ至ルヤ固ヨリ一朝一夕ニシテ望ムヘカラス必幾多ノ星霜ヲ歷テ而シテ後始テ用材ニ供スルヲ得ヘシ夫レ樹木ノ成長ハ如此限アリ國家ノ需用ハ如彼窮ナシ限アル樹木ヲ以テ窮ナキノ需用ニ供ス其間保護ノ方法アルニ非サルヨリハ何ヲ以テ能ク匱乏ノ患ナキヲ保タニヤ故ニ山林保護ノ要ハ培養ノ方法ヲ得ルト需用ノ節度ヲ立ルトニテルヤ必セリ  
一曾テ維新以前ヲ回思スルニ幕府ヨリ列藩ニ

至ルマテ苟クモ山林ヲ有スルモノハ之レカ  
 保護ノ法ヲ設ケ之レカ専務ノ官ヲ置キ樹藝  
 伐採常ニ斯ニ從事ニ假令其法制宜キヲ得サ  
 ルモ其山林ヲ愛惜シ其國用ヲ贍足スルノ道  
 ニ於テ至レリト云ヘシ然ルニ維新以來遂ニ  
 山林守ヲ廢シ尋テ又山林拂下ノ令ヲ下セリ  
 是ニ於テ旧時ノ愛惜保存スルモノ或ハ商賈  
 占有ニ歸シ或ハ樵者ノ斧斤ニ懸リ保護ノ法  
 ナキ濫伐相繼キ所在ノ山林殆ニト為テ荒  
 蕪ニ歸スルニ至ル且其統轄ノ制ナキヤ各自

區々一様ノ制法ナク國家緩急ノ伐木ト雖片  
 一々之ヲ商賈ニ委シ曾テ全國山林ノ保護ニ  
 思及セス故ニ其樹木ヲ求ムルヤ獨リ運輸至  
 便ノ所ニ於テシ而シテ深山幽谷ノ地ハ置テ  
 問ハス是ヲ以テ運輸便利ノ地ハ戕賊相繼キ  
 曾テ樹木成長ノ暇ナシ而シテ深山幽谷ノ地  
 ハ樹木ノ多キモ老枯腐蝕シテ遂ニ用材ニ供  
 スル能ハサルニ至ル全國山林ノ平均ヲ失シ  
 天物ヲ暴殄スルモ亦既ニ甚ニト云ヘシ獨リ  
 然ルノミナラス一朝事アルノ日ニ臨ニ俄カ

二其材ヲ求ムルヲ以テ每子ニ高賈ノ穀中ニ  
陥リ許多ノ用度ヲ費サ、ルヲ得ス而シテ其  
材ハ亦甚タ上好ノ物ナラス豈一挙兩失ト謂  
ハサルヘケニヤ嗚呼山林保護ノ衰廢モ此ニ  
至ツテ極ルト云ヘシ

一昨明治六年ニ及ニテ始メテ山林拂下ヲ禁  
之昨七年各省寮用山ノ名義ヲ廢シ悉皆之ヲ  
本省ニ統管セシム於是本省官負ヲ派出シ全  
國ノ官林ヲ調査セシム乃チ良否存廢畧ニ其  
別ヲナシ箇所及別木種負數粗ニ其大槩ヲ錄

シ今年政始之ヲ奏上スルヲ得タリ然レモ保  
護ノ法未タ立タス專務ノ官未タ備ラス培養  
ノ術未タ施サス而シテ其伐採ノ如キハ猶依  
然旧ニ因ル豈方今ノ一大缺典ト謂ハサルヘ  
ケニヤ因テ竊ニ以テ為ラク本省内ニ於テ山林  
局ヲ設置シ而シテ其事地理ニ關涉スルヲ以  
テ地理寮ニ於テ之ヲ兼攝シ培養伐採ノ事一  
切之ヲ本局ニ統轄シ齊斤時ヲ以テ入り培養  
其宜キヲ失ハス而シテ百般ノ用材常ニ之ヲ  
便宜ノ地ニ貯蓄シ一朝緩急ノ必需アルニ遇

内務省  
へハ則チ其工券ノ大小ヲ計リ長短巨細請求  
ニ應ジテ之ヲ給セハ求ムルモノハ更ニ奔命  
ノ勞ナクシテ給スルモノハ豫テ貯蓄ノ備  
リ如此ナレハ則チ所謂培養ノ法需用ノ節並  
行レテ而シテ山林保護ノ道全キヲ得ヘシ  
一於是乎從來ノ成法及佛普諸國ノ森林法ヲ折  
中シ方今時勢ニ適スルモノヲ取り以テ假山  
林規則山林局本支職制假官伐規則假山林監  
守規則假培養規則等ヲ作俟セテ進呈シ以聖斷  
ヲ乞フ抑山林ノ事タル樹藝芟伐トモ自カラ

季旬アリ且ツ盜伐火災等ノ患モ少カラス一  
日ヲ緩クスレハ一日ノ損益ヲ生ス伏テ願ク  
ハ速カニ許可布告アラシテ懇望ス而シテ其  
經費大槩ノ目途ハ別紙ニ開陳セリ

明治 月日

内務卿

大政大臣殿

内務省

支局十六ヶ所設立入費

一貳萬千〇拾七円六拾弍

但一局三付十等一人十四等一人十五等一人小使一人

内

七千六百八拾円 局長一人十等一人十六人一人壹ヶ年一人月給 但一人三付 四百八拾円

貳千八百八拾円 十四等一人十六人一人壹ヶ年一人月給 但一人三付 百八拾円

貳千三百〇四円 十五等一人十六人一人壹ヶ年一人月給 但一人三付 百四拾四円

五百七拾六円 小使十六人壹ヶ年一人月給 但一人三付 三拾六円

小以壹萬三千四百四拾円

貳千六百八拾八円 十等十六人八十日巡回十日  
滞在旅費日當

貳千百貳拾四圓八拾錢十四等十六人 前全断

貳千百貳拾四圓八拾錢十五等十六人 前全断

小以六千九百三拾七圓六拾錢

六百四拾圓 但二十六ヶ所迄ヶ年筆墨紙炭油蠟燭等諸費壹ヶ所ニ付四拾圓ツノ積

監守人凡千五百人給料

一八萬貳千百貳拾五圓 但壹人ニ付一日平均拾五錢

通常伐採入費 但川下ヶ共

一四萬圓 但每年平均九尺ノ十万本伐出ノ積 壹本ニ付四拾錢

臨時伐採入費 但川下ヶ共

一三萬圓 但每年平均九尺ノ十万本伐出ノ積 壹本ニ付三拾錢

苗木植付入費

一壹萬五千圓 每年平均百万本植付ノ積 壹本ニ付壹拾五圓ツ

惡木芟除下伐伐透入費

一凡六千圓 壹ヶ所ニ付三百七拾九圓

通計 金拾九万四千百四拾貳圓六拾錢

下枝下草菌草薪炭木類拵下代凡積

一壹萬圓

用材貳拾萬本賣渡高

一凡貳拾萬圓 但尺ノ壹本ニ付平均壹圓ノ積

通計貳拾壹萬圓

差引金壹萬五千八百五拾七圓四拾錢

內務省

御布告案

山林規則別冊、通假定候條此旨布

告候事

明治 月日

太政大臣

內務省中山林局被置候條此旨布  
告候事

明治 月日

太政大臣

內務省



山林規則

第一章

林ノ名義

第一條 林トハ樹竹ノ叢生スル所ヲ

總稱ス

第二條 林ニ屬スル名稱左ノ三種ト

ス

第一森 樹木ノ社寺内又ハ邸

内等ニ叢生スル所ナリ

第二並木 樹木ノ路傍又ハ堤

塘等ニ列生スル所ナリ

第三條 藁竹ノ叢生スル所

ナリ

第二章 林ノ種類

第三條 林ノ分類左ノ三種トス

第一官林 官ニテ所有スル

モノナリ

第二官民共有林 官ト人民

ト共有スルモノナリ

第三民林 人民ノ所有スル

モノナリ

第三章 林ノ統轄

第四條 全國ノ林ハ内務省之ヲ統轄

シ山林局ヲシテ之ヲ管理セシ

ム

第五條 東京ニ本局ヲ設置シ各部

支局及貯木所ヲ分置ス

支局及貯木所ノ制別ニ之ヲ

定ム

第四章 林ノ區畫

第六條 全國ヲ區畫シテ十六トナ

シ 毎區分テ小區畫數箇トス

第一區

東京 神奈川 足柄 熊谷

椽木 茨城 新治 千葉

埼玉

第二區

磐前 福島 宮城 水澤

第三區

岩手 青森

第四區

北海道

暫ク規則外タルヘシ

第五區

秋田 酒田 山形 置賜

第六區

若松 新潟 相川 長野

第七區

新川 石川 敦賀

第八區

豊岡 鳥取 島根 濱田

第九區

小倉 福岡 大分

第十區

佐賀 長崎 三潯 白川

第十一區

鹿兒島 宮崎 琉球

第十二區

山口 廣島 愛媛

第十三區

小田 岡山 北條 飾磨磨

第十四區

高知 名東 兵庫 大坂

和歌山 滋賀 奈良 堺 京都

第十五區

度會 三重 筑摩 岐阜

愛知

第十六區

濱松 山梨 静岡

茅五章 林 境界

茅七條 森林 境界 官林 官民共有

林民林ヲ論セス溝渠隈塘樹石等ニテ便宜其標識ヲ設ク  
ヘシ境界標ハ林園中方面基  
ニルトス尤モ木標下木標ハ  
毎三年改正スルモノトス

第六章

森林帳及森林増減帳

第一 森林帳毎五ヶ年一月ヨリ

四月ヨリ森林ノ箇所反別ノ

増減樹木ノ種類員数及ヒ目通寸間ヲ改メ及艦用水

禁伐木ヲ改メ記注スルモノナリ

第二 森林増減帳毎年四月前年中森林樹木ノ増減ヲ記注

スルモノナリ増地ハ荒蕪不  
毛地及燒跡ニ  
栽植スルノ類ハ減トシ枯風雪折  
為メ伐シ又類ハ立枯風雪折  
スレ又ハ水ノ類ナリノ為メ燒止流失

第八條 毎年改正スル森林増減帳毎

五ヶ年改正スル森林帳ハ監守人ヨリ地方官ニ出シ地方官之

ヲ纏メテ内務省へ出スヘシ  
但シ民林増減ノ調査ハ追テ  
定ムルモトス

第七章 艦用木

第九條 官林民林官民共有林ヲ論  
セズ軍艦必需ナル樹木ニ限  
リ其筋ノ官吏槌印シ之ヲ簿  
記シテ地方官ニ通告シ伐採  
ヲ禁シ民有ノ分伐用ノ節ハ  
相當ノ代價ヲ拂フモノトス  
但人家ノ障碍トナリ及ヒ

所有主情故アツテ伐木ヲ乞  
ス片ハ之ヲ許スヘシ

第八章 禁伐木

第十條 官林民林官民共有林ヲ論  
セズ其土地ノ測量點及水陸路  
標トナルモノ又ハ社寺境内或  
ハ古跡名所ニアル古木ハ其筋  
ノ官交槌印シ之ヲ簿記シ地方  
官ニ通告シ伐採ヲ禁ス

第九章 官林

第一節 官林ノ等級

第十一條 官林ノ等級ヲ分ツテ左

ノ三等トス

第一等 檜 榎 楠 槻 檜 等ノ良材

大樹多ク都會ニ近ク又ハ運漕

ニ便ナル地ニアルモノ

第二等 檜 松 赤松 柾 等ノ良材

大樹多ク藩縣ノ本支廳及繁

華ノ地ニ近ク又ハ運漕ニ便

ナル地ニアルモノ

第三等 檜 榎 松 杉 多ク及其他

ノ雜木アルモノ

第二節 林ノ監守

第十二條 官林ノ監守ハ地方官ニ委

任スルモノトス 地方官内務省

ニ伺タル上官林監守人ヲ配置

スヘシ 監守人等級ハ一等ヨリ

四等ニ至リ 給料ハ日給二十錢

ヨリ十錢マテヲ以テ土地ニ應

シ宜ヲ料テ伺定ムヘシ

但監守規則ハ別冊ノ通りタルヘシ

第三節 官林培養

第十三條 官林ノ手入培養ハ支局之ヲ本局ニ陳稟シ條例ニ從テ之ヲ施行スルモトス

第四節 官林植付

第十四條 官林ニ苗木ヲ樹栽スルハ支局之ヲ本局ニ陳稟シ條例ニ從テ之ヲ施行スルモトス

第五節 官林芟伐ノ制限

第十五條 官林ヲ伐用スルハ左ノ制限ニ從フモトス

第一 太政官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ伐木スルヲ得サルモノ

第一等官林ノ樹木

神社境内ノ樹木

第二内務省限り伐木スルヲ得ルモノ

第二等三等官林ノ樹木



寺院境内ノ樹木

官民共有林ノ樹木

第三地方官限り伐木スルヲ得ルモノ

急水防禦ノ為メ第三等官林ノ

伐木

風雪折レ枯木倒燒木

第六節 官用伐木

第十六條 官用木材ヲ要スル片ハ

主任ノ官省察司ヨリ其由ヲ記

シ所用木材ノ種類大小曲直長

短ヲ詳記シ内務省ニ照會スヘシ内

務省伐採シテ之ヲ拂ヒ渡スヘシ

第七節 官水拂下

第十七條 人民ヨリ堤防橋梁等一般

公益ノ為メ或ハ船舶用諸院諸工

場ノ建築及ヒ鑛山用又ハ營業工細

類ノ為メニ官木拂下ヲ願出ル

如キハ内務省其事状ニヨリ之ヲ

許可スヘシ

第八節

第十八條 樹木ノ芟伐ハ可成丈ケ三等官林ニテ之ヲ求ムヘシ若シ三等官林ニ求メ得サレハ二等官林ニテ之ヲ求ムヘシ一等官林ハ左ノ四件ノ外成ヘキ丈ケ伐木セサルモトス

第一 皇居ノ建築

第二 山陵宗廟ノ建築

第三 軍艦及官船ノ製造

第四 非常大工作場ノ建築

第九節

官林發賣ノ制限

第十九條 官林ヲ發賣スル左ノ制限

ニ從フモノトス

第一 太政官ノ許可ヲ得ルニ非

サレハ發賣スルヲ得サルモノ

一等官林

二等官林

官民共有林

第二 内務省限リ發賣スルヲ得

ルモノ

三等官林

第十章 官林禁制

第二十条 條 樹木盜伐ヲ禁ス

第二十一条 條 菌茸草石禽獸等ノ類

ヲ盜採シ又ハ樹根ヲ堀リ樹皮

ヲ剥キ脂液ヲ取ルトヲ禁

ス

第二十二條 許可ヲ得スシテ牛馬

羊豚ヲ入込マシムルトヲ禁ス

第二十三條 許可アリト虽モ鑑札ヲ

所持セスシテ林中ニ入ルトヲ禁ス

第二十四條 林中安ニ火ヲ焚クトヲ

禁ス

第二十五条 第二十条ヨリ 第二十

四条マテノ禁ヲ犯スモノハ至當ノ

罰ニ處スヘシ

第十一章 官民共有林

第一節 官民共有林ノ地券

第二十六条 官民共有林ハ人民其

地共有ノ地券ヲ有スルモノトス

第二節

官民共有林ノ監守

第二十七條

官民共有林ノ監守人ハ

地方官之ヲ命ニ官林監守人ニ準

シテ扱フヘシ最モ其入費ハ折

半ニテ官民各其一半ヲ出スヘ

シ

第三節

官民共有林ノ芟伐

第二十八條

官民共有林ノ芟伐ハ官民

協議ノ上タルヘシ最モ芟伐セ

シ代價ハ折半ニテ官民各其

一半ヲ有巨苗瓜植継其他ノ入費

モ折半ニテ官民各其一半ヲ出スヘ

シ

第二十九條

時宜ニヨリ人民承諾ノ上

官ニテ代木スルハ其代價ノ半

ヲ官ヨリ人民ニ渡スヘシ官ノ承

諾ノ上人民ニテ伐木スルハ其

代價ノ半ヲ人民ヨリ官ニ納ム

ヘシ

第四節

官民共有林ノ貸附

第三十條 官民共有林ハ官民協議ノ上ニ非サレハ之ヲ也ハ貸附ヘカラム

第三十一條 官民共有林ヲ貸附タル代料ハ折半シテ官民各其一半ヲ有スヘシ

第五節 官民共有林ノ賣渡

第三十二條 官民共有林ハ他ヘ賣渡スルキヲ定規トス

第三十三條 萬一他ニ賣渡スルハ官

民協議トシテ太政官ノ許可ヲ請フヘシ

第三十四條 太政官ノ許可ヲ得テ賣渡スルハ其代價ヲ折半シテ官民各其一半ヲ有スヘシ

第十二章 民林

第一節 民林ノ地券

第三十五條 民林ハ人民其地所有ノ地券ヲ有スルモノトス

第二節 民林ノ種類

第三十六條

民林ノカ類左ノ二種ト

ス

第一

一人ニテ所有スルモノ

第二

数人ニテ所有スルモノ及一

村又ハ数村ニテ所有スル

モノ

第三節

民林ノ賣渡貸附

第二十七條

第一民林ノ賣渡貸附

ハ持主ノ勝手タルヘシ第二民

林ノ賣渡貸附ハ共有者協議ノ

上タルヘシ但共有者三カノ二不同意

ナルキハ協議ト云テ得ス

第四節

民林賣代及聞墾

第三十八條

民林ノ賣代ハ持主共有

者ノ勝手タルヘシ

但左ノ場合ニ

於テハ持主共有主ヨリ二ヶ月前

森林支局へ届出ヘシ別段ノ見込

アルハ期限前買上ケ方ノ處置ア

ルヘシ

第一 良材五百本以上ヲ賣代

入ル地

第二 五町歩以上ノ森林ヲ残  
ラズ艾伐スル地

第三十九條 民林ヲ開墾セント欲スル地

ハ總テ四ヶ月前地方官ニ届出地

方官左ノ六件ノ障碍アルヤ否

ヲ熟察シ内務省ニ伺ヒタル上

可否ヲ指令スヘシ

第一 山岳堤防潰頽スヘキ恐

ル地

第二 水源<sup>水路</sup>ノ涸溢ヲナスヘキ恐

アル地

第三 海水激盪陸地ヲ沃漬スヘキ

恐アル地

第四 土砂流失又ハ沙塵吹散或ハ

作毛家屋ヲ吹倒スヘキ恐アル

地

第五 測點目標又ハ要害ニ關係

アル地

第六 人身ノ健康ニ關係アル地

内務省

山林局職制

本局

局長

全国森林ヲ統管シ培養及伐ノ事

務ヲ掌ル

副長

長官ノ事務ヲ代理スルヲ得ル

奏任出仕

長官ノ命ニ従ヒ各事務ヲ分掌ス

判任出仕



分掌ノ事務ヲ查辨ス  
本局ノ事務分テ四課トス

第一課

森林ノ培養伐測量斃賣貯木等  
ノ事ヲ處分シ樹木ノ加除増減ヲ記  
注シ自他往復文書ノ事ヲ掌ル

第二課

森林監守ノ事及森林ニ関スル諸  
訟事ヲ取扱森林及貯木巡檢監  
視ノ事ヲ掌ル

第三課

金銀出入官負給料及ヒ諸費計算  
用度支給ノ事ヲ掌ル

第四課

林学考究培養經驗ノ事ヲ掌ル

支局

判任限年詰之

長 八等ヨリ十等ニ至ル

副長 七等ヨリ十二等ニ至ル

長アルハ副長ヲ置カス副長アルハ長ヲ置カス

書記

十五等以下

支局ノ事務本局ノ命ヲ奉シテ處分ス  
貯木所

判任限年詰之

長

前同新

副長

前同新

書記

前同新

貯木所ハ支局便宜之ヲ兼攝ス東京府

ノ如キハ別ニ設置スルニトス

貯木保監需用交付ノ事ヲ掌ル

官伐供給規則

一章

供給順序

一第一條

各省府縣必需ノ用材ハ内

務省山林局ニ於テ其請求ニ應ジ供

給スヘシ

一第二條

凡工事ニ付用材ヲ要スル

中ハ必ス其需用ノ木品負數寸間并

其所用ノ事故及ヒ工舉ノ地方ホ詳

細記載シ六ヶ月以前ニ本局ニ協議

スヘシ

但臨時急速ノ需用ハ此限ニア  
ラス

一 第三條前条請求ノ協議アル片ハ  
本局ニ於テ其工事ノ大小ノ用材  
ノ多寡ヲ計較シ各其地方便宜ノ  
貯木所ニ通知シ供給ノ見込ヲ問  
議スヘシ

一 第四條前条本局ノ問議アル片ハ貯  
木所ニ於テ速カニ本種真數代  
價入費及送付ノ手續等明細取調

本局ニ報送スヘシ

一 第五條前条貯木所ノ報答次第相當  
ノ代價并送付ノ日限等取極ノ該省  
府縣ヘ回答ナシ其決答次第再ヒ其  
貯木所ヘ通知シ送付ノ手續ヲナサ  
シカヘシ

一 第六條貯木所ニ於テ用材送付ノ  
片ハ明細目錄ヲ作り之ヲ送付シ引渡  
濟ノ上先方ヨリ同様ノ目錄并請取  
證書ヲ取ルヘシ此目錄證書ハ馬

取ノ工速カニ本局ニ送致スヘシ  
一第七條凡用材ハ通常非常ニ拘ラ  
ズ相當ノ代價ヲ納ムヘキハ勿論  
且用材受取タル日ヨリ三十日以内  
ニ納ムヘシ

一第八條代價納方ノ手續ハ其請求  
ル該省府縣ヨリ直ニ本局ニ送納  
スヘシ

二章 通常伐木

一第九條毎年各支局ニ於テ区内

ノ山林ヲ巡檢シ翌年伐出スヘキ木  
數ヲ點査シ地勢ノ險易ト津出ノ便  
否ヲ審按シ木種員數寸間目通地名  
等詳細取調諸費一切ノ目論見帳ヲ  
作り本局ニ通知スヘシ

一第十條前條支局ノ報知アルハ  
其伐出スヘキ員數并ケ所ホ取極メ  
再ニ其旨ヲ該支局ニ回報シ伐出  
ノ手續ヲナサシメ而シテ地方官ハ  
更ニ其由ヲ達スヘシ

一 第十一條前条本局ノ決報アルハ  
該支局ニ於テ地方官ハ協議シ伐  
木ノ期限ヲ取極メ着手ノ用意ヲナ  
スヘシ

一 第十二條前条伐木ノ砌ハ地方官ニ於テ  
官員ヲ出シ該地近傍ノ村里ニ布達シ嚴  
重取締ヲナスヘシ

一 第十三條凡ソ伐木ハ樹木ノ年数ト生  
立ノ疎密ヲ計較シ各其適度ヲ失ハサル  
ヲ要ス蓋シ伐木ハ獨リ用材ニ供ス

ルノミナラス亦以テ樹木保存ノ意  
ニ兼タルモノトス故ニ伐木ニ左ノニ  
様アリ

第一 間伐 樹木ノ位置甚茂密ニ過  
ルハ大氣流通ヲ欠キ濕氣蔚蒸遂  
ニ樹木ノ生長ヲ妨害ス故ニ  
其疎密ノ中間ヲ計リ抜キ伐  
リテスモノ之ヲ間伐ト云

第二 方伐 樹木ノ生長自ラ成敷ア  
リ苟クモ其期ヲ愆ルハ膏液衰謝

ニ幹心腐蝕シテ遂ニ用材ニ供スル  
ヲ得ス故ニ巨木大材森茂スル林ハ  
其年數ト林相トヲ檢シ順次其一  
方ヨリ皆伐スルモ之ヲ方伐ト云フ  
但其中釋木ハ之ヲ存シ伐後ハ苗木  
ヲ培植スヘシ

一第十四條凡伐木ハ方伐ト間伐ニ拘ラ  
ス毎林區豫メ其伐採ノ順序ヲ定メ  
若干年ニシテ一周シ再ヒ原地ニ復シ  
前年保存植栽スル樹木成長期ニ

會スルヲ要ス

一第十五條通常伐採ノ多寡ハ地方ニ依テ  
自カラ同シカラスト雖モ毎林區トモ年  
々千本ヨリ三萬本マテヲ目的トシ取  
調ヘシ

三 三章 非常伐採

一第十六條國家非常ノ大工事アツテ巨木ノ  
用材ヲ要スル片ハ常年伐木ノ外臨時  
ノ伐出ヲナスヲアルヘシ  
一第十七條非常一萬本以上ノ伐木ハ必

ハ太政官ノ許可ヲ受クヘシ

但一尋官林ハ非常通常ノ伐採ニ拘ハラズ  
必ス太政官ノ許可ヲ受ルモノトス

一第十八條其請求ノ手續ハ第二條ノ例ニ  
從フヘシ

一第十九條臨時伐採ノ箇所ヲ取極ムル  
ハ先ツ其工率ノ大小ト所用ノ地方及  
用材ノ多寡ニ應ジ其地方便宜ノ各支  
局ニ告達シ伐採ノ所并伐採入費等  
ノ見込ヲ報送セシムヘシ

一第二十條前条各支局ノ報知ヲ参考シ  
愈々ヶ所ヲ取極ムル上ハ再ニ其旨ヲ該支  
局ニ通知シ伐採ノ用意ヲ了サシム而シテ地方  
官へ更ニ其由ヲ達スヘシ

一第二十一條臨時ノ伐採ハ本局ヨリ官負ラ  
出シ地方官ト協議シ該地一切ノ事務  
ヲ擔當セシム

#### 四章 貯木ノ處置

一第二十二條貯木所ハ舟楫運輸ノ利アル場  
所ヲ撰ミ緩急ノ需求ニ便ナラシムヘシ

一第二十三條貯水所ノ周圍ハ溝渠ヲ穿  
テ樹木ヲ植ヘカメテ火災ノ患ヲカラ  
シカルヲ要ス

一第二十四條通常ノ伐木ハ其地方ノ貯  
水所ニ送致シ以テ他日緩急ノ需求  
ニ備フヘシ

但臨時供給ノ餘木モ亦本條ニ準  
ス

一第二十五條用材ハカメテ其恰好適宜  
ノ品ヲ供給シ兎用錯誤ノ弊ヲキラ

要ス曰テ豫メ凡ノ區別ヲナス

一船艇用材 大十由直材

一鐵路用材

一兵營用材

一電信用材

一家屋用材

一橋梁用材

一第二十六條貯水ハ新旧交換五年ヲ過  
クヘカラズ五年ヲ過キ官用必需品ノ見  
込ナケレハ本局ニ通設シ祀クハ凡抑



ヲ十スヘシ

一 第二十七條 若地貯木所ニ於テ毎年出  
入木ノ許表并代價經費表ヲ作り本  
局ニ送致スヘシ

森林監守及規則

第一條

一 森林監守人ハ其監守ヲ命セラレタル  
森林取締向ニ於テハ其責ニ任スヘ  
シ

第二條

一 其命セラレタル森林ヲ日々巡視シ  
ノ件々ヲ犯スモノアレハ見付次第  
其  
押ヘ其筋ヘ届出ツヘシ

樹木盜伐スルモノ

菌茸草石禽獸等ノ類ヲ盜採スル

モノ

許可ナクシテ樹根ヲ掘リ樹皮ヲ

剥キ脂液ヲ取ルモノ

許可ナクシテ牛馬羊豚ヲ入込マシ

ノルモノ

鑑札ヲ所持セスシテ林中ニ入ルモ

ノ

林中安リニ焚火スルモノ

第三條

一 左ノ件々ハ見付次第制止スヘシ

誤テ牛馬羊豚ヲ林中ニハラセタル

モノ

十五歳以下ノ誤テ林中ニ入ルモノ

枯木落葉ヲ拾ハ菌茸具他ノ諸物ヲ盜採  
マシ 採アタルハ取押

行旅及狂顛人ノ迷テ林中ニ入ル

モノ

許可ノ證左アワテ林中ニ入ルヲ得ル

雖モ煙草ノ吸食ヲ消サハルモノ

第四條

一 風雪折レ枯倒レノ樹木アレハ其大小  
負數ヲ換シ帳簿ニ記シ速力ニ地方  
官へ届出ヘシ

一 鋸屑枯枝枯葉取片付燬根ニ堆積セ  
シムヘカラス

第五條

一 野火アレハ速ニ駆付ケ消防スヘシ其場  
台ニ於テハ區戸長ニ通シ最寄村内ノ  
助力ヲ乞フヘシ

但焼木ハ第四條ノ通り取計ヘシ

第六條

一 垣圍ノ破損溝渠ノ堵塞標札標木ノ朽  
損等ニ注意シ修理スヘキアレハ速ニ地  
方官ニ届出ヘシ

第七條

一 林巾鳥獸ノ死尸アレハ見當リ次第取  
片付若シ爰死人アレバハ相當ノ保護  
ヲ下シ速ニ地方官ニ届出ヘシ

第八條

一 苗木植付又ハ實生アルハ殊更注意シ

根回り傾キヲ直シ風當リ強キ場  
所ハ添木ヲ加ヘ斃テ枯倒ナカラシムル  
ヲ要スヘシ

第九條

一 銳獵スルモノアレハ其規則ニ從テ取計  
ヘシ

第十條

一 毎年二月マテニ前年一月以来十二月  
マテノ伐木及風雪折レ枯倒焼木等  
ノ大小負數ト植付苗木ノ員數トノ

増減ヲ記シタル帳ヲ製シ地方官ニ差  
出スヘシ

第十一條

一 毎五ノ年三月マテニ前四ノ年マテノ官  
林及別ノ増減及薪木ノ種類員數  
及大小長短及艦用木禁伐木ヲ検査  
シ帳簿ヲ改正シテ地方官ニ差出ス  
ヘシ

但テ検査ノ場合ニ於テハ伺ノ上テ傳  
ノモノ一時雇入ル、トアルヘシ

培養法條例

第一條

一 森林ノ培養ハ支局其ノ管內ヲ限リ  
左ノ條例ニ從ヒ之ヲ奉行スヘシ

第二條

一 培養ノ方法ハ左ノ二種トス

第一 空氣ヲ疏通シ日光ヲ透徹セシメ  
密蔚陰濕ヲ除キ穢木ヲ長育スル  
タノ老樹雜木ヲ芟伐スルノ類

第二 荆棘ヲ芟リ藤蘿ヲ拂ヒ又ハ植

栽瓜ノ顛倒ヲ扶ケ根株ニ培ヒ風  
塵ノキ當ラナクノ類

第三條

一 第一類ノ培殖ハ支局其林相ヲ察シ實  
況ヲ候安シ伐木ノ程類負數大小及其  
費用ヲ概算シテ本局ニ稟シ許可ノ上  
着手スヘシ

第四條

一 第二類ノ培養ハ支局其實況ヲ候安シ  
適宜處ガシ其費用ヲ本局ニ稟告ス

ハシ

第五條

一 森林並木トモ伐木ノ跡必ス苗木ヲ植  
栽スヘシ尤実ヲ壽キ差シ木ヲナス等其  
地味季旬ニ應シ其費用ヲ概算シテ  
本局ニ稟シ許可ノ上處カスヘシ  
但一本ヲ伐スレハ必ス苗木三株ヲ植  
ルヲ規トス

第六條

一 林中空地アレハ苗木ヲ植栽スルヲ前条

ノ通りタルヘシ

茅七條

一 伐跡根林及葉挽屑等片付方ニ注

意

朽腐物ヲシテ地上ヲ斃蔽スルナリ

カヲシムヘシ

但根株ヲ掘テテリルノ製ニ枝葉換

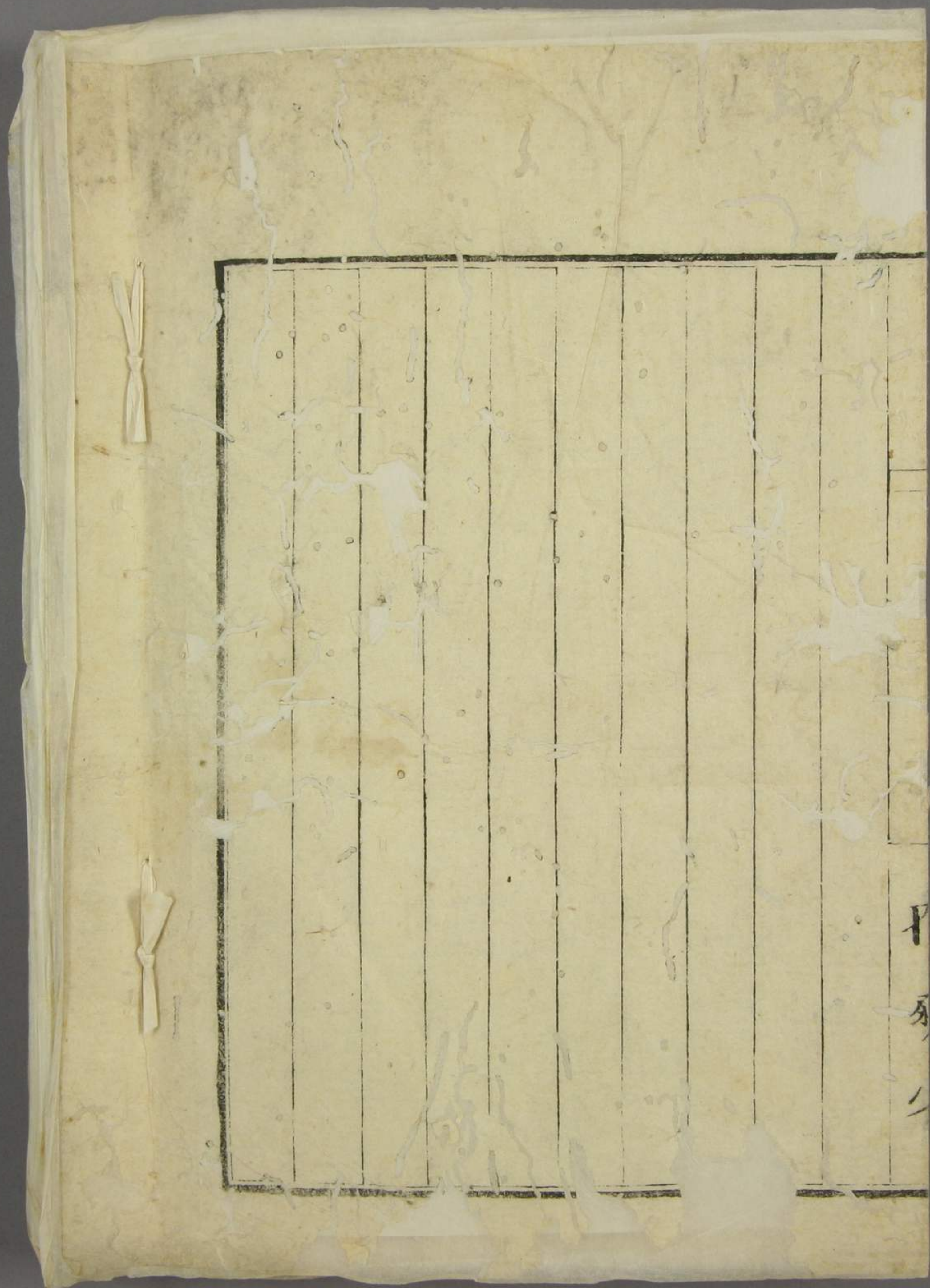
ホヲ薪炭トナシ挽屑貯水用ニ併スル

等ナリ別段ノ仁法ニ後ナヘシ

内  
務  
省

内  
務  
省





十  
分  
一